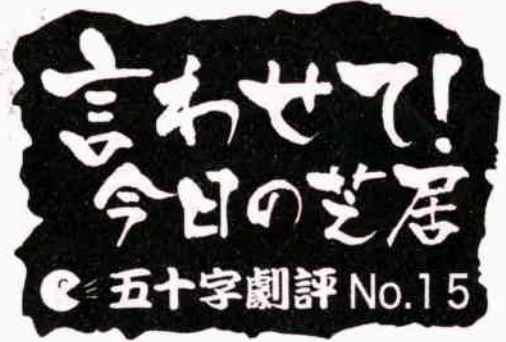


王女メディア(幹の会+リリック)



【五〇代】

▼わかっていても、どうしようもなく犯す罪。哀しく歪んだ笑みと苦しみ。平幹二郎は女と母の、魂と愛を表現。(女性)

【六〇代】

▼最初から最後まで、目が離せない状態でした。そして平幹二郎さんの言動にも圧倒され、とても有意義な時間でした。(女性)

▼平幹二郎の中に棲みついているという王女メディアに引き込まれておりました。ギリシャ悲劇とはこういうものか! (女性)

▼平幹二郎さんの演技は凄い! その質が格段に優れている。彼が四〇年近くにわたりライフワークに

してきた作品なので、期待はしていたが、こんなに凄いとは!! ただ、今回はそれだけです。(男性)

▼何か演劇とは違うものを観ていると錯覚するぐらい、圧倒的な凄みを感じました。平さんの八〇歳超えているとは思えない声、所作に感動しました。古典は時代を超えて普遍であることを教えられました。(男性)

▼圧倒的なパワーでメディアの怒りと嘆きの声が響く。国王と王女の死を知らされた時の冷たく静かな笑みが忘れられない。(男性)

▼素晴らしい演劇でした。名優とは、平さんのような人の事を言うのでしようネ! 感動することばにするのが難しいです。(女性)

▼素晴らしかったです。平さんのプロ根性に力をもりました。中味は恐ろしく嫌だが、深く創造でき、この地で観れたことに感謝です! (女性)

▼すべて捧げた夫に裏切られる妻。その心情は現代に通じるところもある。平幹二郎の年齢を感じさせない演技がすばらしかったです。(女性)

▼どうしてこんなに心が苦しく熱く燃える様なメディアを八二歳の平幹二郎は演じられるのか!! 如くなり舞台 (女性)

▼平幹二郎さんの一世一代を充分堪能できた。ストーリーは理性では説明つかないが、負のエネルギーはそれはそれで強烈だった。(男性)

▼八〇代とは思えない平様の迫力ある声・演技、二時間見入ってしまった。男性ばかりの舞台と聞いていましたが、見入っているうちに女性もいる様な気分になったのは平様ばかりでなく皆さんの演技もすばらしかったのだ、と納得。(女性)

▼男性が女性を演ずるのは、一夜干しにも似て、味が濃厚で刺激的になる。西洋版歌舞伎を堪能しました。さすが平幹さん! (男性)

▼平さんが旭川に来ることはもうないだろうとチマタの噂でしたが、こんなに元気で素晴らしい芝居、是非もう一度。(女性)

▼初めてギリシャ悲劇のお芝居を見てびっくり、はるか紀元前の時代から男性は若い女性・お金地位のある女性に弱いようで、あとは言い訳に終始し、女性は我慢、でもいざとなると女性も強く怖いですね。平さんの嘆き苦しみの表情、声すばらしかったですね。八十年代とは思えません。(女性)

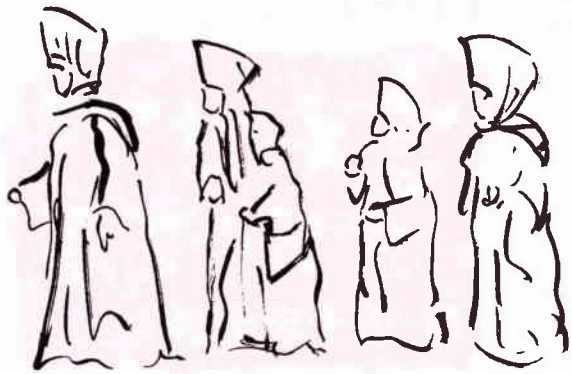
【七〇代】

▼二時間緊張の連続。幕がおり、現実へ。心が痛かった。「これはお芝居よ」と自分に言い聞かせ、家路へ向かった。(女性)

▼女の悲しさが、反対側から表現された様で、あらためて自分の中にあるおそろしさなど、考えさせられました。(不詳)

▼流石、平さん。長い台詞、ハリのある声、朗々として、内容が残忍で最悪な結末なのが、あの美しさでひと際恐ろしさを引き立てました。息もつかずの二時間、本格的な演技を堪能しました。(男性)





▼平幹二朗の熱演は、むずかしい筈の芝居を事もなく観せてくれました。観終わって、「ウーン」とため息が出ました。それにしても、女性の怨念とは恐ろしきものですね。
 (男性)
 ▼夫に尽くし、子を産み育てたけど、女をバカにするな！プライドがあります。恐ろしい悲劇でした。
 (女性)

【年代不詳】

▼アンコールに依って、メディアの顔から平らさんの顔に戻っての笑顔。演じる側と観る側が一体となった、舞台の醍醐味の瞬間だった。
 (女性)

【年代、性別不詳】

▼今回赤の使い方生きてますね。川のように流れる赤、城を開いた時の照明の赤。メディアのセリフも、以前より安心してみれた。

編集スタッフから

芝居を観た感想というものは、その芝居が自分にとって、面白かったのか、そうでなかったのか、ということだと思えます。
 なぜ、面白かったのか、またなぜ、そうではなかったのか。「劇評集」への投稿は、そのことを整理する良い機会だと思えます。ぜひ、気軽に投稿して下さい。お待ちしております。



劇評 QRコード

50字劇評「喜わせて！今日の芝居」に投稿を！

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

署名 “不審” です。ただし、編集の都合上、「男・女」「～歳代」だけは記入を！

字数 “50字” です。多くの会員の声を掲載したいからです。ご理解を！

締切 5月9日(月)

送付方法

メール： asa.gekijo.gekihyou@gmail.com
 (劇評専用アドレス)

FAX : 0166-23-1645
 (市民劇場 FAX: 劇評担当宛)

郵送・持参： 〒070-0033
 旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館 2F
 旭川市民劇場 劇評担当宛

(郵送・FAX・持参の場合、原稿用紙・便せんなど、どんな用紙でも結構です。)